

技術士だより

—(社)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター冬季号<第18号>(平成5年12月15日発行)

◇巻頭言

独立技術士の業務受託の受皿を！

重富 秀雄 (総務委員長・福岡・経営工学部門)

11月中旬のある日、技術士会本部の長友理事から電話があり、用件は東京のK氏(電気・電子)が、福岡県庁に仕事の話で行きたいと言っているの、話を聞いてやって欲しいとの依頼であった。

11月17日K氏からの直接の電話で、18日に福岡に行く旨の連絡を受け、同日の午後県庁に伺いたいのでよろしくとのことであった。

早速私の友人に連絡をとり、商工部企業立地課の担当官にアポイントをとることが出来た。

ところで、担当官にお会いして、技術士会のことを最新パンフレットでPRした後、技術士という名称をご存じですかとお尋ねしてみた。答えははじめて知りましたとのことであった。この担当官は、企業誘致が専門で、特に福岡に進出した大手自動車メーカー工場誘致を担当されたということである。企業誘致に際しての民間調査機関の受託業務はかなりの物量があることはわれわれも認識している。ただ、何を技術士会に業務として発注すべきかの判断がつかないとのことであった。

K氏も技術士会本部のプロジェクトチーム或いはグループの紹介を資料にもとづいて説明しておられたが、ここでも一級建築士と対比しての話になったので、業務受託の場合の受皿の例として、熊本技術センターが実施している国際空港の“大牟田、有明地区”計画案作成の業務について説明したところ、担当官にかなりの評価を得たものと受けとめることが出来た。また、技術士の技術レベルの評価として、弁護士、公認会計士との比較で説明されていることもつけ加えて理解を求めた。

常に指摘されていることではあるが、この面談を通して私は、独立技術士受託業務について、その内容は各部門によって異なるのは言うまでもないが、受皿としての窓口を整備することを真剣に検討する時期に来ていると痛感した。当面、独立技術士としての課題は、自分自身の技術力をクライアントに認めてもらうことが何よりも先決である。そのためには人脈をフルに活用し、業務を通じて、自分の技術力をクライアントに認識させ、その後の業務受託に結びつける営業努力を、足を使って強力に展開する以外に道はないと信じている。

“捨てる神あれば拾う神あり”と先輩諸氏の残された教訓を身を持って体験した私にとって、人の情けほど尊いものはないと思っている。“技術は心である”ということを常に肝に銘じ、“信義”を重んじることを業務遂行の基本理念として、技術士としての道を歩いて行きたいと思う。

独立技術士が単独で処理可能な業務範囲は自から限界がある。異なった部門の技術士が協力することにより相乗効果が生まれてくることは、先日の原井支部長の講演の中でも述べられているところである。技術を通じて世の中が要求している、より“豊かな”社会基盤の整備にお役に立つことをわれわれ技術士は心がけるべきと信じている。またこのことが技術士を一般社会にアピールする最も効果のある方法ではないだろうか。

お互いに情報を交換し、業務受託のためのプロジェクトチームを組織化するための働きかけを積極的に展開して行きたいと思う。

1人でも多くの入会をお勧め下さい

日本技術士会近況

原井 東 男 (理事・九州支部長)

◎平成5年度第4回理事会報告

日時 平成5年11月17日(水)12:30～

場所 日本技術士会会議室

○審議事項の主たるもの

1. 調査委員会運営要領(案)について

この委員会は、会員を代表して、特定の事項について調査審議する委員会である。企業内委員会・中小企業対策委員会・海外業務促進委員会・地球環境技術調査委員会など特別委員会を含め12の委員会がある。

近年、行事が恒例化する傾向にあるため、設立の趣旨にもとづき、成果の公表・期限の設定等の必要が言われて来た。

各種委員会の存続の必要性も含め見直しを行うと共に運営要領(案)についても次回に再度審議することとなった。

2. 名誉会員資格の改定(案)について

現在、会員歴10年以上かつ年齢77歳以上を持って名誉会員としている。

今後名誉会員の急増が予想される。一方、会の発展のためには、若手会員の拡大が不可欠となる。ついては、下記の通り改訂(案)の提案があり、審議の結果、原案どおり了承された。

記

イ. 会員歴35年以上を有する会員。

ロ. 会員歴25年以上、かつ年齢75歳となる会員。

ハ. 現在(1994年3月31日)年齢75歳以上であって、会員歴25年に満たない者については、今後継続会員であることを条件に、次の通り経過措置を設ける。

(i)1999年迄は、これまで通りとする。

(ii)2006年迄は、会員歴13年以上かつ77歳以上。

(iii)2007年以降は、会員歴15年以上かつ77歳以上。

／ ○報告事項の主たるもの

1. 平成5年度二次試験筆記試験合格者数

全国 受験者数 10220人

合格者数 1770人

合格率 17.3%

九州 受験者数 752人

合格者数 100人

合格率 13.4%

2. 平成5年度一次試験受験者数

全国 申込者数 4157人

受験者数 2648人

受験率 63.7%

九州 申込者数 414人

受験者数 256人

受験率 61.8%

3. 技術士審議会報告

H.6年2月1日を目標に変更案取りまとめ中。

新設科目予定は下記の通り

技術部門 新設科目

電気・電子部門 情報通信

水道部門 水道環境

衛生工学部門 廃棄物管理計画

水産部門 水産土木・

水産水域環境

経営工学部門 プロジェクト・

エンジニアリング

情報処理部門 情報応用

新設技術部門(現在検討中)

「環境」部門となる予定

新設科目は、環境計画・環境測定

自然保全

4. その他常設委員会報告

事業委員会 講演会・見学会開催補助費運用の見直しについて検討中。

報酬委員会 専用技術士報酬の実態調査について実施中。

渉外委員会 今迄の活動状況について報告があった。(次ページ)

(本部近況 つづき)

内容項目 P. E. 他資格問題 (国際
整合性)
建設RCCM問題
国際協力・社会資本整備
問題

裁判の技術鑑定人指定問
題

マスコミ対策 (PR対策)

5. 次回第5回理事会は、平成6年1月19
日(水)

以上

◎第2回支部長会議報告

1. 日時 平成5年12月2日14:00~17:00
2. 場所 大阪科学技術センター 703号
3. 担当 近畿支部

○審議事項

1. 支部行事報告の取扱いについて
①北海道支部より参考フォーマットが提
示され、今後はその様式にて報告する
こととした。
②特別事業等は月刊“技術士”に掲載す
るようにする。
2. 専務理事よりの提議事項
①名誉会員資格改訂について理事会審議
状況の報告があった。
②調査委員会運営要領の審議状況報告
③技術士審議会状況の報告
3. 地域支部管内の各県技術士会の名称統一
構成会員の状況について。(中部支部)
参考として東北支部より参考発言があっ
た。
東北支部〇〇県技術士協会に統一した。
4. 支部の理想的な姿・支部から見た本部の

理想像・本部と支部の関係・理事会と支
部との関係・部会と支部の関係・関東支
部創設に対する見解等について一括討論
した。

①支部と部会は、性格も違うし、同列で
はない。支部が上位と考えられる。

②理事会は関東圏を中心とした部会出身
の理事が圧倒的に多いため、しばしば
数の論理で運営されている。

選挙制度見直しも含め改正する必要が
ある。

③関東支部の創設は至難の技である。即
ち、支部設立により、本部は、全く財
政的に成り立たなくなることが明白で
あるからである。

④本部は、会の“顔”として中枢機能に
重点を置き、関東圏運営は関東支部と
みなし本部が代行運営したらどうかと
の意見があった。

⑤本部は支部に対し差別なき運営をして
いただきたい。

5. 次期第3回支部長会議は3月上旬とし東
北支部が担当する。 以上

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

👉 行事・会合などの報告

◎平成5年度第1回幹部会

- 日時 平成5年9月11日(土)13:30~16:00
場所 博多第一ホテル
出席者 支部長外10名(常設委員長参加)
議題 1. 会の運営状況について
2. 今後の行事について(部会行事)
3. 合同セミナーの進捗状況について
4. 沖縄技術士会との交流報告
5. 大韓火薬技術学会との交流につ
いて

↗ 6. 本部情報

- ・理事会 第3回9月8日
第4回11月17日
- ・支部長会議第2回12月2日
- ・平成6年度事業計画アンケートの
対応
- ・第23回日韓技術士会議の対応
10月24日~27日韓国大田
- ・P. E情報について
- 7. その他 (次ページへつづく)

(支部・センター行事報告 つづき)

◎総務委員会

日時 平成5年10月2日(土)13:30~16:00

場所 博多第一ホテル

出席者 原井支部長外9名

- 議題 1. 会員増強について
- 2. 賛助会員、賛助広告について
- 3. その他

◎平成5年度第2回常任幹事会

日時 平成5年10月30日13:00~16:00

場所 博多第一ホテル

出席者 原井支部長外10名

- 議題 1. 会員増強、賛助会員、賛助広告の加入について
- 2. 今後の支部活動について
- 3. 熊本地区よりの提案事項について
- 4. その他、各地区、各委員会の提案事項について

◎平成5年度中間会計監査

日時 平成5年11月13日(土)13:30~16:00

場所 博多第一ホテル

出席者 原井支部長外7名

- 議題 1. 平成5年度中間会計監査について
- 2. その他

☞ 支部・センター委員会・部会だより

◇ 郷・総務委員会(重富委員長)

(1)平成5年度第1回幹事会

日時 平成5年9月11日(土)13:30~16:00

場所 博多第一ホテル

(2)総務委員会

日時 平成5年10月2日(土)13:00~16:00

場所 博多第一ホテル

(3)第20回技術士全国大会(中部支部)

日時 平成5年10月13日9:00~17:30

場所 清水市日本平ホテル

(4)第2回常任幹事会

日時 平成5年10月30日(土)13:00~16:00

場所 博多第一ホテル

(5)第6回官公庁職員との合同セミナー

日時 平成5年11月5日(金)~6日(土)

場所 福岡サンパレス、筑紫ヶ丘CC

(6)平成5年度中間会計監査

日時 平成5年11月13日(土)13:30~16:00

場所 博多第一ホテル

(7)平成5年忘年パーティー並びに研修会

日時 平成5年12月4日(土)13:30~19:00

場所 博多パークホテル

◇ 郷・試験委員会(政野委員長)

(1)平成5年度技術士第一次試験 九州大学

区分 号室	午前			午後		
	申込数	受験	受験率	申込数	受験	受験率
103	80	39	48.8%	80	40	50%
101				127	93	73.2
201				135	76	55.9
202				72	52	79.2
計	80	39	48.8%	414	266	64.1%

◇ (2)平成5年度技術士第二次試験

筆記試験合格者発表 平成5年11月5日

区分 部門	全国	福岡
建設以外	699	37
建設	1072	63
計	1771名	100名

◇ 郷・事業委員会(笠木委員長)

(1)大韓火薬技術学会、韓国トンネル技術学会の建設現場見学研修

日時 平成5年10月12日~10月14日

場所 関屋高架橋外6箇所

(2)第23回日韓技術士会議 (11ページ掲載)

◇ センター・受験対策委員会

(久保田委員長)

平成5年度技術士第二次試験口頭試験対策講習会

日時 平成5年11月20日(土)9:00~17:00

場所 福岡商工会議所 604、605号

受講者47名 講師25名

◇ センター・活性化委員会

(斎藤委員長)

第1回活性化委員会

日時 平成5年9月25日(土)13:30~16:00

場所 博多第一ホテル

議題 1)技術士抄録編集について

2)その他

行事レポート 沖縄県技術士会と九州支部の交流会から

— 飛翔への期待 —

沖縄県技術士会会長 伊志嶺 安進

「ある時、亀と兎がおりました」などというお伽話の“時”とは意味を異にする“時”を強く感じています。この“時”とは、こういうことを云ってくれる人が現れてくるといふなあとと思っている時にほんとは出てきたとする、そういう時をさすのです。

日本技術士会が積極的に海を越えた那覇市に、技術士試験会場を新たに設けた時も、現地の切望に応じた“時”であって「昔々ある時・・・」という時ではありません。

昨年秋、沖縄県技術士会に九州地方技術士センターから電話がかかって来たのがきっかけで、九州と沖縄との交流が頓に深まり、去る2月27日、福岡市商工会議所で行われた会員研修に不肖私がオブザーバーとして招待されたことを心から感謝しています。これを契機に沖縄の国土への暖かいお心づかいで親睦と交流を急速に進展させて下さいました。そして去る8月27日には九州支部の重富、川野、溝口及び斎藤の4氏が来県され、本県からは伊良波、糸数、井戸、上間、小幡、砂川、田幸、福島に私の9人の有志が出席して市内の南西観光ホテルで交流会を持ち、各人ミニスピーチを交えながら近況を報告し合い極めて実りあるパーティに成功させました。

席上、九州支部の4人のスピーチをとおして感じたことは、何しろ、日本の4大島の1つであるだけに、日本の頭脳と技術は九州にも集約されており、技術士の皆様の行動の中に常時発揮されている様子から自信に満ち満ちている重みを感じました。

中でも、九州支部の総務委員長重富秀雄氏は沖縄電力の発電プラント建設にかかわっておられる関係上、来県が頻繁であり、その間に痛感されたという氏は、沖縄県技術士会のメンバーによるプロジェクトチーム作りへの勧告を示されたのが印象に深く残っています。いずれ将来、その時がやって来るに違いないとの感を深くいたしました。

沖縄県技術士会としては、技術士資格取得に挑戦する人々のために激励指導を怠らず啓蒙に努めるとともに、目下中断中の試験会場再開の運動をして、これらの人々の便宜を図るとともに、今回発行された技術研究発表特集に盛られた抄録の数々を通してさらなる励みにしたいと思っています。今後増々、九州沖縄技術士の皆様の交流が実りあるものに発展しますようお願い、21世紀へ向け飛翔する九州の皆様のご健勝を祈ってやみません。

以上

行事レポート 第1回「青年技術士シンポジウム」に参加して

小川 康夫（福岡・建設）

9月10日、本部青年技術士懇談会主催の表記シンポジウムに参加する機会を得た。（約100名）

東京大学坂村助教授の「電脳未来」を聴講し、わが国独自のコンピュータシステムであるTRONプロジェクトの推進者としての講演から、これからの技術はカルチャーミックスの必要がある。技術の進歩はマーケティングや政治に大きく影響される。などが興味深かった。

自由討論会においては、三次元的（専門・地域・年代）交流のパネラーとして参加した。技術士会活動は異業種の技術士と交流でき、ヒューマンネットワークの構築に役だっているという声が多かった。また、近畿地区では、経営者団体との交流によって地域に貢献しておられるとの事であり、参考になった。

今回の催しが、全国の青年技術士のヒューマンネットワーク構築に役立つものと期待している。

以上

行事レポート 矢筈ダム技術研修見学会に参加して

諸藤 元信 (福岡・建設)

1. 主な行動内容について

10月1～2日、佐賀県武雄市西川登町の矢筈ダムの見学会が、第2部会、第5部会の合同で実施されました。参加者は、川崎第2部会長、岡部第5部会長ほか29名でした。主な行動内容について、次表に示します。

10月1日(金)	
14:00	矢筈ダム管理所到着(現地集合組含め31名)
14:00～15:00	管理所内での説明(説明者:佐賀県土木部西部地区ダム建設事務所工務第2課長 原田 彰氏(技術士、建設-河川砂防))
15:00～15:45	ダム壁面ほか周辺設備の見学
15:45～	移動-窯元散策(小山路の窯)→17:00ホテル到着(なかます)
18:00～20:30	懇親会(参加者19名、一次会)→22:30懇親会(参加者10名、二次会)

10月2日(土)	
8:45～	ホテルのマイクロバスにて武雄市内の観光巡り(参加者12名) ①武雄温泉桜門→②鎌倉の水→③黒牟田焼き(宣政の窯)→④本部ダム →⑤大楠(日本で3位)
11:20	武雄温泉駅にて散会

2. ダム見学について

矢筈ダム(ダム位置:佐賀県武雄市西川登町大字神六地先)は、六角川水系の六角川総合開発事業の一環として建設されたものである。ダムの規模としては、堤高32.5m、堤頂長199m、堤体積62,300m³、の重力式コンクリートダムで湛水面積0.13km²有効貯水容量1,310,000m³、で平成3年10月1日より試験湛水を開始し現在に至っている。

事業の効果としては、①洪水調節 ②流水の正常な機能の維持 ③水道用水 ④工業用水をねらいとしている。

管理所内外での原田氏の情熱ある説明で、ダムにかける事業者の熱意は規模の大小を問わず、色々など苦勞や創意工夫をされて解決されている様子がわかりましたが、要約すると以下ようになります。

① 県道波佐見～塩田線と100m程度しか離れていない。また、下流側は県道を挟んで住家がありダム堰堤の巨大構造物が地域住民に威圧感をあたえている。もともとこの県道は、ダム軸の直下に湾曲して隣接していた。そのままであればダム建設中の事故の心配があった。道路を付け替えれば、ダム建設中の資材置場や濁水処理の沈殿地を設置できる。更にダム完成後は地域住民のコミュニティー広場が確保できるという将来のメリットを、

考慮し、ダムの補償工事費の一部と県の道路単独費を投入して現在の県道となっている。

県道を直線化したことによって、県道とダム堰堤の間にほぼ1ヘクタールの広場が生まれた。

② 広場をどういう風に整備し使うかについては、地元住民の要望を採り入れながら憩いの広場になるよう着々と進展していたが、広場の真横の巨大なコンクリートの壁が立ちただかる。「威圧感をやわらげる手だてはないか?」と色々思案した結果、ダム壁面を活用して鯉を描こうというアイデアが浮かんだ。

③ しかし、壁画の費用は高い。武雄市に一部費用負担と、建設省に壁画を描くことを了解してもらうところまでいった。が、武雄市は町づくり特別対策事業では壁画の費用は補助対象にはならないということで、“はた”と困ってしまった。再度、建設省に相談したところ、新規施策の“シビックデザインダム事業”で施工をしたらどうかと指導を受けた。

④ 事業化の目途がついてからは、「鯉の“ダム”のぼり」で大半は賛成であったが、写実的絵でなく抽象的絵、抽象的絵ではなく、「何々とわかる絵」と二転、三転し、「せせらぎ」という題で決定した。

⑤ ダムの壁画は、日本では最初であるとの事であった。 <つづく>

壁面は、セラミック塗料が使用されているが、経年的な劣化（色あせ、汚れ等）に対して再度塗装することは足場等費用の問題もあり考えていない。逆に劣化をしない物（例えば、陶器等）を貼付けるにしても、初期コストで数億円し、水流による負圧の問題をどう解決するか等は、今後の課題ということであった。

⑥ 専門的質疑応答の中で、選択取水設備において利水用取水管を4孔ダム前面に（水がたまる方）ある間隔で高さ方向に設置されているが、湛水される水の温度、濁度等で水質が微妙に変化しているの、取水孔はスライド出来るようにしておくのと更に良いのでは、という貴重なアドバイス等もありました。

（さすが、技術士の見学会だなあと思いました。！）

⑦ 不思議に思ったことは、質問でもあったことですが、流木等を遮断するため湛水面に設置されている浮きフェンスの所に流木やゴミ等がひとつもなく、「こまめに掃除しているのか？」という質問がありましたが、そうではないという事であった。

⑧ 地域住民への配慮の一つとして、先祖伝来の貴重な土地を提供された方々がダムの試験湛水を前にそれぞれの地を偲ぶため、また子供たちにも移り変わりゆく故郷をいつまでも記憶に残してもらいたいというような思いを込めて矢筈ダム湖底フェスティバルを開催し、タイムカプセル、堤体上流面コンクリートの壁面への落書き大会等を実施している点も興味深かった。

いずれにしても、地域おこし、町おこしの一環として単にダムを無機質的に造るのではなく、環境への配慮はもちろんのこと多角的に多角的に事業を進めている様子が実感出来大変勉強になりました。

3. 懇親会について

懇親会は10月1日の18:00より18名の参加で行われました。各自の自己紹介で幕があき、久保田先生のギター弾き語りのあと「青い山脈技術士会」を全員で合唱しましたが、これは久保田先生が技術士会のことを替え歌でその存在価値・精神等を表したもので、11月5日の「官公庁職員と技術士との合同セミナー」でも披露され大いに盛り上がりましたが、皆さんそれぞれ歌詞に込められた思いに共感するものがあるんだなあと、改めて痛感致しました。

その後が、更に面白かった。その内容については紙面の都合上割愛（本当は詳細に報告したいのですが・・・）させていただきますが、完戸先生（農業）、帆足先生（建設）による酒が入ったの有意義な漢文の講義（初級、中級、上級コース）が行われた事だけを報告致しておきます。・・・やっぱり一部だけ紹介致します。「下下下下下」はいかに読むか？。難問ですぞ！。途中（20:00頃）で、熊本から平嶋孝さん（建設）がご多忙中にもかかわらず駆けつけて頂きました。

（つづく）



4. 武雄市の見学について

特に印象深かったのは、窯元の散策でした。一日目は小山路の窯、二日目は黒牟田焼き（宣政の窯）を見学しましたが安土桃山時代から十数代続いていること、材料となる陶土を見つける工程から始まり、それを極めて細かになるまで数年寝かすこと（小山路）、本焼きに使う燃料としては赤松を使用すること（共通）、本焼きに入ったら30時間くらい平均6～7分置きに赤松を投入し続けること（黒牟田）、歩留まりは70～80%程度であること（窯の中でも場所によって温度分布が異なるためらしい）（黒牟田）、温度センサーを所々に据えて一定にしたらムラがなくなるのでは？と浅はかな質問をしたが、それでは、

芸術、こだわり、というのか、予期しない色合いが出来た時の驚き。喜び等がない・・・（黒牟田）、と言うことであった。

なぜ、窯元が各地に点在しているのか質問したら、陶芸に最も重要なのは水である事、また、秘伝を盗まれないようにしているためという事であった。

以上、武雄市の観光巡りを通じて、また、窯元の散策を通じて、いつも通り過ぎてばかりでした（失礼！）が、自分で歩いてみると地域の理解も深まり、猫に小判の陶芸の世界ですが大いに勉強になり、全体を通じて大変有意義な研修見学会でした。このような企画取りをされた各部会の幹事の方々へ感謝申し上げますと共に、ご苦労様でした。



行事レポート

◇ 第1・第3部会合同例会報告

町田 貞徳（研修委員長・福岡・電気・電子）

日時 平成5年10月2日

場所 第1ホテル（博多駅前）

出席者 山谷第1部会長・江崎第3部会長・合志正夫・宮田守次・児玉久（応理）・松尾憲一・久家悟（建設）・黒江浩・佐々木安治（水道）・服部弘政・小林良一・大塚善三郎・森下明憲・田中正人・延寿忠雄・町田貞徳の16氏

概要

会員からのご意見を基に、部会としての年度計画を作り実行した企画の1つである。

今回は会員同志の専門事項を紹介して貰うと言う主旨で、合志正夫氏の「中排水の利用」と宮田守次氏の「問題解決の為の新手法について」と言う演題での合同講演会を行い、その後意見交換をおこなった。

後援会の後は懇親会を行い、既知・未知の会員同志、酒ビールをくみ交わし交流を深め楽しい一時であった。

講演内容

1. 中水排水の利用施設の自動運転システム

講師 合志正夫氏

大都市においては、大型ビルの排水を再生して、これをトイレ洗浄水や雑用水に利用しようとする中水道技術が採用され、すでに実施されている。

一方、自治省は中水道事業に財政支援強化を推進し、下水道処理場から発生する、

多量の放流水を再生し中水に利用しようと計画思考中である。

講師は、東京都にあるアーク森ビルの排水利用施設を動かす自動運転システムに就いて研究し、アーク森ビルをモデルに計装フローを案出したと下記の説明があった。

内容項目

中排水利用施設のプラント概要・基本計画・限外濾過機・運転実績を紹介した後、研究事項については下記の通りである。

- (1) 操作方式について
- (2) 原水受槽の水中ポンプの制御
- (3) 原水調整槽の水中ポンプの制御
- (4) 反応槽揚水ポンプの制御
- (5) 反応槽の水中ポンプの制御
- (6) 中間層の水中ポンプの制御
- (7) 水質計器

2. 問題解決の新手法について

講師 宮田守次氏

講師が独自に開発した「問題解決方法及び研修システム」で既に1,700名余の受講者がいる。その結果、多くの企業の従業員教育の効果が大きく、好評を得ているとのことで、その概要を紹介された。

マックステン法（MACSTEN）

「問題解決のマトリックス分析、訓練、評価及び問題解決の方向管理法」が正式題名であって、

<つづく>

内容は下記のような構成になっている。

- a) マックステン法初級
- b) マックステン法中級
- c) マックステン法方向管理戦略コース
- d) マックステンビジネスゲームコース
- e) マックステン法QCサークル活動活性化コース

このコース開発の経過は1981年10月、

「問題解決の10ステップ」として社内研修用に適用され、逐次改善発展を行い、1991年5月「マックステン法」として充実し、平成5年度も月毎の講習計画が確立し実行されている。

まとめ

講演の内容を知りたい方は直接郵便でお問い合わせください。 以上

行事レポート 第20回技術士全国大会に出席して

水上 信照（副支部長、福岡・建設）

1. はじめに

「考えよう地球の未来」を大会テーマとして、去る10月13日、第20回技術士全国大会が、静岡県清水市に於て開催された。今年、昭和49年、第1回全国大会が中部支部（於犬山市）主催で開かれ、3巡した事となる。

川浦昭平・中部支部長以下、実行委員会の皆様の（受付は実行委員の奥様方）の熱烈歓迎を受け、富士山を望む日本平会場よりの、秋の陽光に、清水港、美保の松原、駿河湾の景観は印象的であった。参加者は、353名（内 夫人同伴者72名、九州支部からは原井支部長以下24名（内 夫人同伴8名）であった。

2. 大会式典

大会宣言は、「私たち技術士は、地球の

未来を考え、21世紀に向けて、科学技術の発展に総意を結集すること」である。

宮崎茂一会長は、「今大会での環境問題及びエネルギー問題への対応、資源のリサイクル等、時宜を得た、数多くの研究発表が企画されており、ここでの論議が、21世紀に向かうあるべき経済社会の姿として前世界に発せられるメッセージとなることを期待したい」との挨拶があった。江田五月科学技術庁長官、市長、各局長の祝辞の後、記念講演があった。大会に先だって、午前中は分科会、研究発表会があり私は第1分科会に出席した。

3. 分科会

☆第1分科会 環境について考える。〈続く〉



- 辻 喜礦 最近の環境へのかかわり方について
- 塩沢那雄 富士山の自然林修復に伴う環境創出(後述 1-1)
- 吉永勝也 産業廃棄物処理の100%リサイクル
- 岩井田黎一郎 静岡平野の地史と環境問題
- 前波清隆 よみがえる規格外野菜(後述1-2)
- ☆第2分科会 資源について考える
 - 飯盛八郎助 太陽エネルギー利用について
 - 松本文雄 風力について
 - 久保嶋勝己 製紙産業における資源リサイクルの知恵
 - 古田二郎 水資源とリサイクルについて
 - 田中郁雄 エネルギー消費に伴う環境汚染

4. 研究発表会

- 妹尾晶夫 研究開発進化論
- 神村民雄 地域の変化の中に技術士業務を開発する
- 宮野正克 画像情報の活用研究
- 岡本那彦 先端技術複合技術研究会の発表の10年を顧みて
- 茶木英一 地方空港におけるシミュレーション技術
- 本田尚士 環境監査の動向と技術士の対応

☆分科会報告

1-1 富士山の自然林修復に伴う環境創出
 富士山麓の自然林研究として、地被区分別土壌貯水能力は、落葉広葉樹林が最高(250mm)、針葉樹林土地160mm、ゴルフ場等は50mmで最低値を示す。また浸透強度は、ゴルフ場等の人工草地では、30mm/hrの降雨により表面流出が始まり、50mm/hrで15mmの流出、100mm/hrでは半分以上の地表流下量が発生する。これに対し森林域で通常の降雨では、地表流下はほとんど発生せず、70mm/hr前後の降雨でようやく流出が発生するに過ぎない。広葉樹林地がもっとも地表流下量が少ない。いかに自然林が大切かよく分かるデータである。本研究は、表富士周遊道沿いの人工林(標高1000m、700m、400m)に三角形(一辺20~30m)に伐採し、ブナ、ケヤキ、カエデを植林する。植えられたブナは、まるでエントツの中に

いるような状況で、天井の空に向かって急速に伸びる。この力を自然復元に応用するもので、完成目標は40年後と云う。富士山の自然林修復が全国に応用される事を期待されると云うもので、九州地方の人工林(台風被害甚大)の自然林修復への活用が期待されるもので、非常に有益な発表と思われた。

1-2 よみがえる規格外野菜

富士山東麓のみくりや食品工場兼東富士開発農業協同組合常務理事の林高義氏の開発プロジェクトの紹介発表である。同地域の規格外野菜の発生率は、馬鈴薯31%、キャベツ50%、にんじん60%、ごぼう50%等で、青果市場で発生した規格外野菜を、場内に建設した第1次原料処理工場で、洗浄-裁断-金属検査をし、高品質生産管理体制の整備された調理加工工場に搬入される。製品出荷、販売まで行っており、平成4年度5,378トン、30.6億円の実績を上げるに至ったものである。規格外野菜の活用は、休閑化している農地に経済性のある野菜振興事業を導入でき、近隣地域の定年退職者に60~70才までの10年間、野菜作りのため、再び戦力として充実した余生と、大地に活力を見いだす人生の家庭を創出させることで地域融合にも寄与しているとの事である。

5. 記念講演

「地域から日本 そして世界へ」

スズキ(株) 代表取締役 鈴木 修 氏
 スズキ株式会社は静岡県を代表する企業で中堅自動車メーカーの2代目オーナーとして30年間にわたる経営者としての苦心談を、平易な素人に分かり易い話しをされた。

特に自動車のモデルチェンジ対策、バブル崩壊後の企業経営、中堅企業としての海外進出対策等、苦悩するオーナーの一端を披歴され、出席者に強い感銘を与えたと思う。

6. 懇親会

第1回全国大会委員長の臼井一男氏の挨拶に続き、城島清水市長、天野静岡市長の祝辞の後、宮崎会長、川浦支部長、来賓の鏡割り、乾杯で祝宴となった。アトラクションは、静岡県フォークダンス連盟の池田会長の郷土芸能の紹介、駿河太鼓の演奏、次回全国大会案内(近畿支部、平成6年10月19日、於大阪ヒルトン・ホテル)等があり、参加者は情報交換、旧来の親交を深めることが出来た。

以上

行事レポート 日韓技術士セミナー参加 旅情印象記

山谷 三郎（第1部会長、福岡・機械）

第23回日韓技術士会議が、韓国大田市にて10月25日開催、同時に開催中のEXPO '93の見学を兼ねての参加勧誘を受け、出席することとした。10月24日(日)快晴に恵まれ、JR自慢の水中翼形高速艇ビートル2世にて、同行(実は小生が随行)の福岡、水上・笠木、大分、川野の諸先生とともに、博多港埠頭より乗船釜山港へ向けて出航した。

久し振りの船旅にて、晴れ渡った秋空のもと、紺碧の海原に囲まれた対馬等の島嶼を眺めながらの缶ビールの味は格別、同行4人の話がはずむ中に、時速60kmの高速と、心地よい波にゆられ、3時間足らずで活気に満ちた釜山港に到着。釜山からは特急セマウル号に乗る。広軌にて座席は広々、意外と緑多い山々、きれいな河川、夕暮れの農村風景を眺めながら韓国中央部の大田駅に到着。当日は、会場の文化センター内ホテルにて宿泊。

翌25日朝、訪韓技術士グループと合流、会議は10時より始まった。大会の説明は後述-水上-するが、機械屋として参加した第1分

科会「ISO9000シリーズに対する対応」表題の会議解説と、第2に中小企業での技術経験をもとにした上下水道管路の路上への顔である鉄蓋類、及び樹木保護盤等景観材料の足もと主体に施工管理状況について若干の印象を述べる。

少し話が固くなるが、ISO9000は、最近欧州を主体とした貿易に関する製造製品上の品質に関する国際規格であり、この規格を認証取得しておかないと欧米先進国への輸出が困難になると考えられる。日本では250社程審査登録されており、韓国にて非常に熱心に取り組んでいる姿が報告され、制限時間一杯討論が続いた。次に鑄鉄製鉄蓋及び景観材料の、ホテル周辺やEXPO会場への歩行途中見受けた地面への施工状態は、日本のようなきめ細やかに対し、施工が荒く、コンクリート割れ等あって、未だ底辺への関心が行き届いていない印象であった。これからの課題と言えそうである。帰りは26日夜、釜山にて本場韓国の焼肉料理を満喫した。

行事レポート 第23回日韓技術士会に出席して

水上 信照（副支部長、福岡・建設）

1. まえがき

日時：平成5年10月25日

場所：韓国大田直轄市

参加者：日本側 44名（九州支部4名）

韓国側 52名

日韓技術士会議は、日本、韓国で交互に開催されて、今回は23回に当る。会議は合同シンポジウム、分科会の形式で、両国側からそれぞれ発表があった。今年は参加者が過去最大で主催者の韓国技術士会側では夫人同伴者が多く、特に懇親会はなごやかな、国際色豊かなレセプションであった。

2. 合同シンポジウム

テーマは「安全対策」で、特に許埴氏（韓国建設視察団団長）の「韓国の建設災害」洪鐘敏氏の「安全教育と建設災害予防に及ぼす影響」は内容の濃い報告であった。

3. 分科会

4分科会に別れて発表があったが、私は、

第2分科会、環境問題に出席した。韓国側、金在憲氏の「迎日地区砂防緑化」の韓国の緑化事業、崔營博氏の「韓国の河川開発現況と展望」は貴重な資料により、韓国の水資源開発と森林政策の紹介は非常に有益であった。日本側、鈴木清氏の「緑化技術研究開発」も興味深い内容であった。

4. あとがき

九州支部から、笠木直行、川野宏平、山谷三郎、水上信照の4氏が参加した。韓国はソウル・オリンピック、今回の大田市エキスポと、日本に見倣い経済伸展を第1目標に国をあげて活動している状況で、日本の30年代を思わせるものがある。食文化も豊富で、我々日本人にはなじみ易いものを感じさせ、親しい隣人としてお互いに理解を深める事が大切と思う。平成6年は、北海道札幌市で開催予定に付き九州支部としても積極的に参画し、日韓技術士交流を図る必要があると思う。

行事レポート ◇ 第6回九州地域の官公庁職員と技術士との合同セミナー実施報告

笠木 直行（事業委員長・福岡・建設）

平成5年11月5～6日、福岡市において、上記セミナーを開催しました。
 主題：九州の地域振興・活性化に果たす行政と技術士の役割

主催：(株)日本技術士会九州支部
 後援：通商産業省九州通商産業局、建設省九州地方建設局、運輸省第4港湾建設局、福岡県、福岡市、(株)九州・山口経済連合会、(株)建設コンサルタント九州支部
 場所：福岡市博多区築港本町福岡サンパレス

前回までは、公共団体職員と技術士との合同セミナーとして開催しておりましたが、国県の職員にも広く参加していただく意味を込めて、今回は官公庁職員と技術士との合同セミナーとして開催しました。

主催者として原井支部長のあいさつの後、来賓あいさつとして福岡市長桑原敬一殿のメッセージをいただきました。

セミナーおよび特別講演はつぎの各講師のお話がありました。（敬称略）

1. 福岡市における下水再生水利用について
 福岡市下水道局長 鬼木 寛
2. 福岡県の土木行政について
 福岡県土木部次長 藤井 甚吾
3. 建設行政の動向と拠点都市整備
 建設省九州地方建設局 産業調整官 牛草 陽一
4. 地域における産業技術振興
 通商産業省九州通商産業局 技術振興課長 江崎 進
5. 技術士の役割
 (株)日本技術士会九州支部 九州支部長 原井 東男

各講師からは、それぞれの専門分野におけるテーマにより、有意義な講演をしていただき、講演後は熱のこもった質疑応答が続きました。

特別講演は、九州・山口経済連合会常務理事 長友泰明先生の「21世紀の九州」と題する講演があり、21世紀へむけての九州の戦略や、地方分権型国家の構築など興味深いお話を聞くことができました。

セミナーは川崎第2部会長の閉会のことばで終了し、つぎの懇親会にうつりました。

5時から始まった懇親会にも100名以上の参加者が、サンパレスの会場を埋めた。

福岡地区でのアトラクションでは、琴、尺八の演奏につづいて、ギターの弾き語りを披露し、“青い山脈”のメロディに技術士会の歌詞をつけた全員合唱は圧巻であった。

次年度開催担当の佐賀から、若い2人の参加があり、佐賀をアピールする余興も飛び出し、終始なごやかな笑顔の中で懇親会を終了することが出来た。会の終わりには、博多1本締めを、古賀事務局長の音頭で全員が力強く締めくくることが出来た。

翌6日は、福岡タワー、福岡ドームの見学会等が行われ、無事諸行事が終了しました。

開催と運営に当たり、ご協力いただいた地区役員の方々、YCEの皆さん、そして協賛いただいた地元有力企業の各社に紙上をおかりして、心から御礼申し上げます。

セミナーに参加した地区別、部門別の人員は次表のとおりです。

地区別（技術士）

区分	参加者	地区別（技術士）									
		地	福	北	佐	長	熊	大	宮	鹿	計
		区	岡	九州	賀	崎	本	分	崎	児	
		参加者	82	17	3	9	7	11	5	8	142
官公庁職員	13										
一般企業	17										
技術士	142										
合計	172										

地区別（技術士）

部門	機械	電気電子	化学	金属	資源工学	建設	水道	衛生工学	農業	林業	経営工学	応用理学	水産	合計
参加者	5	8	2	2	1	80	11	2	12	4	4	10	1	142



随想 香港・広州・マカオ見聞録（その2）

矢野 友厚（センター副会長・福岡・建設）

○ 旅行には塩、梅干、インスタント味噌汁が必需品
 朝食は毎回バイキング方式で米飯は出ない。その代わりお粥がメニューの一つに出されているが味も素っ気もない。食塩も置いてないのでお手挙げである。吾々のグループの一員は塩、インスタント味噌汁、梅干、塩コブ、振りかけ等、3種の神器ならぬ5調味料持参の周到さ。参った！参った！奥さんのその心配りに一同羨望の念しきり！！

○ 中国の酒

・紹興酒（老酒）

日本の酒屋にもあり、もち米が原料の酒で度数も日本酒よりやや低い。中華料理店で注文すれば出される中国酒で、二日酔いしない特徴がある。日本では氷砂糖を入れて呑む人が多いが、中国人は絶対にしない。かん(燻)をつけてよし、冷やのままよし、好みによる

・茅台酒（マオタイ酒）

原料は高粱（カウヤン）で、度数は52~54度、マッチで点火できる。広州の夜食でくつつく

出されたが皆その強い度数に閉口してノーサンキュウ。私が平気で吞んでいたら「矢野氏
の先祖は中国の田舎では？」とヒソヒソ。

昔、日中戦争の折、日本軍が暖をとるため
徴発したと伝えられる猛烈に強い酒である。

また、日中復交の際、田中角栄首相が、大
いに「乾杯、乾杯」と公式の宴で中国首脳と
意気投合した酒で、本当においしい酒である。

ただし、胃腸に自信のない人は絶対に不可
である。

・白乾兒 (パイカル)、楊貴妃

酒精度25~35度、マオタイ酒より落ちるが
庶民用の焼酎、日本にも輸入されている。

・ビール

中国産のビールは全くもってコクがない。
泡立ちも悪く、ホップの味がほとんど感じら
れない。技術的に今一步である。

味をたとえるならば、日本のビールを栓抜
いて、冷蔵庫の中に2~3日放置した状態に
近い。

○ 中国の茶

種類としては、緑茶、烏龍茶(ウーロン茶)、紅
茶、その他加工茶がある。

・ウーロン茶 日本でも有名で、その効能は
広く宣伝されている。特に鉄観音茶が有名で
脂肪を代謝する作用がある。なる程今回の旅
行で、ブクブク肥えた中国人はほとんど見掛
けなかった。あれ程脂っ濃い中国料理を食べ
ていてもこの茶の効果のお陰か。また楚々た
る美人には遇ったが、中国のグラマー美人を
見掛けなかったのもその所為か。残念至極!!

○ 中国の水道水

中国では、決して生水を飲んではいけない。
「ホテルでは、ポットに入ったお湯と、水差
しに入った湯ざましを飲め」ときつく申し渡
された。私は洗面所で歯磨きの際ウッカリ飲
んでしまったが、ゴム草履のような胃腸のお
陰で無事であった。

一同、日本の水道水の有難さをしみじみと
味わった旅行であった。

・香港の水道

香港には取水できる河川はない。よって遠
くの珠江から約170kmの導水管で原水の供給
を受けている。したがって水は貴重品で、ど
こに行っても節水の呼びかけ標示がなされて
いる。福岡市の公共建物内の注意書を思い出
す。また、洗面所、風呂の水も澄んでいない。
ああ外国だなと実感する現象の一つである。

・広州の水道

浴室の湯・水ともに濁水である。途中の配
管にかなりスケールが堆積しているのでは？

・マカオの水道

原水がどこから供給されているか不明、こ
こだけは生水が飲める。世界的に有名なカジ
ノがあるだけに水道水の供給には万全を期し
ているらしい。

○ 中国のホテル

・香港 Regal Koloan Hotel (富豪九龍酒
店) ホテルとしては立派だが、かなり古
い。浴槽の排水不良には驚いた。

・広州 The Garden Hotel (花園酒店)

外見は立派だが、中味はかなり手抜きした
設計となっている。例えば、換気扇がないた
め、部屋の中に異様な臭がこもったままであ
る。この臭が、カーテンや椅子等にまでしみ
込んでいるのには閉口する。

また、トイレトーパーが残り少なくな
っていても一向に無頓着で、窓のカーテンは
一度もクリーニングしたこともないようで、
サービス面でかなり落ちる。浴室の湯・水は
前記のとおり。

・マカオは Mandarin Oriental Hotel
Macau (マカオ文華東方酒店)

香港、広州と較べて最優秀であった。ホテ
ルの部屋も広く、部屋の悪臭もなく、水道水
も飲めるし、部屋サービスも行届いて、快適
であった。

○ 中国の方言

全国で約2000種類あるそうで、北京と広東
では、同国人の通訳が要る位やこしい。案内
の添乗員が3回も変わったことから頷ける。

○ 一人っ子政策のつけ

世界一多い、約12億に近い人口は、中国の
近代化を著しく遅らせている。そこで子供は
1人と制限し、それ以上生めば親が失職した
り、公営アパートから追い出されたりで、ペ
ナルティが厳格だそうである。

特に農村では、将来の労働力としての男児
の出生を喜ぶあまり、女児が闇に葬られるこ
とも密かに行われるらしく大変だ。

また、生まれた子を慈しむあまり吾が
俥一杯の過保護の子供が多いという。

日本では将来の人口減を恐れて、戦争中
のように「生めよ・ふやせよ」のスローガンが
まかり通ろうとしているのに、中国では全く
逆である。 <次号につづく>



会員ニュース



☆受賞のお知らせ -敬称略-

◎ 牟田 基久 (建設・福岡)

平成5年10月29日、日比谷公会堂にて公園制度百二十周年記念式典があり、建設大臣の表彰を受けられました。(公園の整備及び都市緑化の推進に寄与し、その業績顕著)

☆日本技術士会(九州支部)入会 -以下敬称略-

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
福岡	正領	森田 徹	水道	〒819 福岡市西区大町団地8-404
"	"	田野襄一郎	建設	〒819-11 福岡県前原市大字神在374-27
"	"	竹中 幸生	"	〒830-11 福岡県三井郡北野町上弓削113-6
"	"	帆足 建八	"	〒819-01 福岡市西区横浜1-20-22
宮崎	"	平岡 輝夫	"	〒882 宮崎県延岡市中島町3-302

☆九州地方技術士センター入会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)	(連絡先)
宮崎	正領	平岡 輝夫	建設	〒882 宮崎県延岡市中島町3-302
福岡	"	山越 実	"	〒814-01 福岡市城南区樋井川4-32-22-301
"	"	吉田 元秀	"	〒816 福岡県大野城市筒井3-12-27-701
"	"	田川 秋夫	"	〒811-31 福岡県粕屋郡古賀町日吉1-24-15
"	"	安達 秀夫	"	〒818 福岡県筑紫野市大字紫460-8
北九州	"	永吉 英昭	金属	〒800-02 北九州市小倉南区朽網西4-2-23
福岡	"	山口 正徳	農業	〒815 福岡市南区高宮3-18-22
"	鞆	縄田 善三	衛生工学	〒818 福岡県筑紫野市大字上古賀232-12-201

☆日本技術士会(九州支部)退会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)
福岡	鞆	清水 透	水道
"	正領	緒方 栄	機械
"	"	田口 和久	建設

熊本 鞆 後藤 洋一 水道
-以上 受付順-

☆九州地方技術士センター退会

(地区)	(区分)	(氏名)	(技術部門)
福岡	正領	高木 博	応用理学
"	"	吉川 正	建設
"	"	森田 徹	水道
熊本	"	森 克彦	建設
福岡	"	平野 厚	"
"	"	加藤田敬太	"

★投稿を募る★

技術研究論文・技術士の主張・賛助会員会社の紹介など、技術的なことは勿論会員の受賞などのニュースもお願いします。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。

(200字詰め原稿用紙2~3枚程度を目安に、支部事務局宛にご送付下さい。)

★九州地方技術士センター正会員、建設部門・福岡地区 加藤田敬太先生が平成5年8月2日に、また、九州地方技術士センター正会員、建設部門・鹿児島地区 新満正雄先生が平成5年10月11日に逝去されました。

謹んで おふた方のご冥福をお祈りいたします。

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 加藤 正司 (建設)
連絡先 〒890 鹿児島市鴨池新町
25-1-105
2. 納富 希志夫 (建設)
連絡先 〒819 福岡市西区野方2-44-5
3. 和智 鉄也 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通り
1-12-9 フジビル内
(株)サンテクノ TEL (092)751-7997
4. 空閑 忠雄 (化学)
連絡先 〒814-01 福岡市城南区別府
3-2-13-1305
勤務先 〒859-32 長崎県佐世保市広田
4-5-9
西部環境調査(株) TEL (0956)39-1535
5. 甲斐 忠義 (建設)
勤務先 建設省佐賀河川総合開発工事
事務所長

6. 成内 律男 (応用理学)
連絡先 〒846 佐賀県多久市東多久町
大字別府2949-1057
7. 阿部 洋介 (建設)
勤務先 〒878 大分県竹田市大字会々
1650-7
大分県竹田ダム建設事務所
TEL (0974)62-4123
8. 古城 輝夫 (応用理学)
連絡先 〒870-11 大分市田原946-8
9. 久富 富造 (建設)
連絡先 〒889-06 宮崎県東臼杵郡門川町
城ヶ丘5-85
10. 竹内 良治 (水道、衛生工学)
勤務先 〒806 北九州市八幡西区鷹の巣
3-10-16
北九州市水道局水質試験所
TEL (093)641-5948

◇会誌”技術士”最近号の主要目次

☆10月号

- ・提言 変革の時代に生きる技術士
/本田 尚士
- ・私の技術士業務
蒸気タービン技術屋30年/永島俊三郎
- ・研修のページ
企業経営とTQC(全社的品質管理)
/辻 民雄

☆11月号

- ・提言 機械部会長の任期を終わって
/倉貝 嘉郎
- ・私の技術士業務
紙のリサイクル /早房 長雄
- ・農薬と水質規制 /伊藤 秀夫

☆12月号

- ・提言
技術士の役割 /芳野 重正
- ・私の技術士業務
技術士とセンタ・オブ・エクセレンス
/好川 哲人
- 私の技術士業務歴 /前田 勇

11. 山崎 敬太 (機械)
勤務先 〒810 福岡市中央区薬院
3-1-24
松下電工(株)九州エンジニアリング
センター TEL (092)521-1501
12. 永重 雅守 (建設)
勤務先 〒891-02 鹿児島県揖宿郡喜入町
中名1017
前田建設工業(株) TEL (0993)35-2296

—受付順、敬称略—<会員ニュースおわり>

✍ 編集後言己 🖨

- ・”技術士だより”も4歳半、ヨチヨチ歩きも何とか見られるようになったかな。
- ・発行後読み返すと、必ずミスが見つかる。前号もプリンター不良で見にくいなど…。編集に携わる者としていつも反省しきり。
- ・景気も今がどん底、オニに笑われても来年こそ!!と期待しながら、よいお年を。(小)

発行：(株)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター
〒810 福岡市中央区大名1丁目
12-61 新天ビル402
☎(092)771-9534
編集：九州支部・総務委員会